第7回千葉県食品等安全・安心協議会(概要)

1　日　時　　平成21年11月6日(金)午後1時30分から午後3時15分

2　場　所　　プラザ菜の花3階会議室「菜の花」

3　出席者　　羽田会長、北村副会長、齋藤委員、渡辺委員、長田委員、岩村委員、薫田委員、
萩原委員、小林委員、橋本委員、中嶋委員、松本委員、坂本委員

4　議　事

(1)　平成20年度リスクコミュニケーション開催状況について

(2)　平成21年度リスクコミュニケーション実施計画について

(3)　食品等の安全・安心確保に関する基本方針に係る平成20年度事業・対策等実施結果報告について

(4)　食の安全・安心レポートの発行について

(5)　食品等の自主回収に関する情報提供を支援する事業実績について

(6)　消費者庁について

(7)　元気な「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画(食育計画)について

5　会議要旨

◇　傍聴者2名

◇　健康福祉部中澤次長あいさつ

第7回千葉県食品等安全・安心協議会の開催に先立ち、一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様方には、平素より、県民の食の安全・安心の確保のため、それぞれの立場から御尽力いただき、感謝申し上げます。

今回の県の不正経理問題に関しまして、県民の皆様から信頼される県庁を一丸となって作り上げてまいります。

「食」は、生命や健康の源であり、食品の安全確保は、県民が健康で幸せな生活を送る上で重要な問題であることから、協議会は、食の安全・安心の施策について協議を行う場として、平成18年に発足いたしました。

昨年度の協議会においては、食品の安全・安心に関する情報は、快適な生活を過ごしていく上で、大切な情報であるとのご意見をいただき、平成20年9月から「食品等の自主回収に関する情報提供を支援する事業」を開始し、本年9月末までに22件の情報の提供がありました。

このような状況を踏まえ、県といたしましては、今後とも、自主回収情報やリスクコミュニケーションの推進を図り、食の安全の確保に努めてまいります。

◇　羽田会長あいさつ

今、豚インフルエンザとかいろんな問題があります。今回、第7回千葉県食品等安全・安心協議会ということで、今日は、昨年度の事業、どのようなリスクコミュニケーションをしたか、

本年度計画、その他が用意されています。

食品の問題に関しては、日本の経済が苦境に陥っているという状況にあり、質だけの問題ではなくて、量の問題、これから食をどのように確保していくかということが大問題ではないか。

堂本知事から森田知事に変わったが、千産千消の方向性は、この協議会でも考えていかなければならない課題ではないかと考えている。

フードマイレージとか、水の使用とかといったものも遠くから運んでくれば、それだけかかるという状態もあります。今回の豚インフルエンザというのも、メキシコの豚農場で、アメリカの会社が、豚を適切に飼育していたかどうかという問題から起こっているのではないかとの話がある。食の問題は、感染症その他にも関係する非常に幅広い問題で、食の安全・安心の確保は、どうしたら実現できるか、考えさせられる事態が発生している。

【議事】

(1)　平成20年度リスクコミュニケーション開催状況について

(2)　平成21年度リスクコミュニケーション実施計画について

◇議題1,2について、議題集1,2ページに基づき、事務局より一括説明。

◇質疑応答

○小林委員

・遺伝子組換え食品のリスクコミュニケーションで、開催後のアンケート結果で、「おおいに 不安がある」と答えた人が、開催前よりも増えている。

・リスクコミュニケーションには、不安を無くすという目的もあると思うが、これでは逆に不安を煽ったのではないか。

○羽田会長

・個人的意見であるが、資料を1回読んで全員が理解できるほど簡単な内容ではなく、本当に理解し不安が増えたのか、あるいは理解できないから不安が増えたのか判断できない。

○北村副会長

・消費者が不安に感じるのは、未知のものと自分でコントロールできないものと言われており、遺伝子組換え食品は難しい内容で、そのメカニズムが理解しにくく、国内で作っていないので自分でコントロールできないことを知って、新しいリスク認識が出たように感じた。

○羽田会長

・例えば、癌の原因には、食べ物やタバコがあり、それらを理解した上で、我々は食べていかなければならない。そのあたりのことを議論してもいいのではないかぐらいに難しい。

・遺伝子組換え食品も、1回リスクコミュニケーションを開催し、全てが理解できるかというと難しい。

○松本委員

・リスクコミュニケーションは、リスクが小さい事を説得する場ではなく、全員がスパイラルアップするためのものである。前回は、先生の説明で、新たなことを知り、逆に不安が

いっぱいになった感がある。

・たとえ安全でも使いたくないという消費者が拍手を受けていたように、消費者は情報の受け手と同時に情報の送り手であり、「遺伝子組換えかどうかの情報を明記してほしい」という情報を生産者側に送れたと思っている。

・加工食品にも明記するような活動が必要なのではないかと思った。

○北村委員

・リスクコミュニケーションは、1回で判断するものではなく、合意を得られない時は、新しい考え方等で、再度、合意を得るために実施するもので、ディベートとは違い結論を出すものではないと思う。

○松本委員

・アンケート結果を見ても、今後、どうやっていくかが大切だと感じた。

○萩原委員

・遺伝子組換え食品のリスクコミュニケーションでは、白熱した会場とのやりとりがあり、さらに、大学生に実験の現場を見てもらい、その結果を報告してもらうやり方も聞いていて興味深かった。

・アンケート結果で言えば、「不安」だった方々が、「どちらかというと不安はない」に移ったのは、一定の成果である。

・遺伝子組換え食品の安全性のデータが遺伝子組換え食品を作っている企業から出ており信用できるのか、アメリカの穀物戦略に踊らされているのではないか、など世界を背景にした不安・疑問を持っている方がいることがわかった。

・「何となく不安」の中身がわかってきたので、積み重ねれば明確な考えができてくるのではないか。

○羽田会長

・全てを理解することは難しく、食べて起こるリスクと次世代にまでかかるリスクがある。わかっていることを勉強し、知った上で議論することが大切だと思う。

○中嶋委員

・わからないという人の中には、言葉や内容のどこまでが判かったかがわからなくて、イメージ先行で反対意見に同調した人がいたと思う。

・全体で協議するには、全員が内容を理解できる説明をする必要がある。

○坂本委員

・遺伝子組換え食品のリスクコミュニケーションでは、対立軸をはっきりさせたことが良かったと思う。

・年長者に遺伝子組換え食品に反対の意見が多く、遺伝子組換え食品を選択できるようにして欲しいという意見で会場が沸いたことは印象深い。

・安全を安心に換えるのがリスクコミュニケーションだと思うが、社会的背景もあり、食以外の分野でも日本人はゼロリスクを求めているように思う。

○羽田会長

・糖尿病の遺伝子が見つかったからといって、その人が100%、糖尿病になるわけではなく、なる確率が上がる・下がるという話を患者さんにするのは、医師にも非常に難しい。このような内容を受け入れるためには、全体の知識レベルを上げる必要があり、それを担うのがリスクコミュニケーションだと思う。

○松本委員

・ゼロリスクを主張する人より選ぶ権利を主張する人をもう少し大事にして欲しい。

○北村副会長

・ゼロリスクは、「わかっている事」、「わからない事」を整理して説明できるチャンスがあまりなかったことを言いたかったと思う。

・リスクコミュニケーションは、互いにフランクに言い合うことでできていくものだと思うので、整理し、「ここまでは要求しても大丈夫」、「ここはまだ無理」ということを理解してもらう方法になると思う。

○羽田会長

・リスクコミュニケーションは、始まったばかりで、今後どうしたら良くなるかは、皆さんや消費者の意見が重要だと思う。

○坂本委員

・県が運営しなくても、消費者・事業者・生産者が集まる会を頻繁に開催できれば、より一層のコミュニケーションがとれるのではないか。

(3)　食品等の安全・安心確保に関する基本方針に係る平成20年度事業・対策等実施結果報告について

(4)　食の安全・安心レポートの発行について

(5)　食品等の自主回収に関する情報提供を支援する事業実績について

◇議題3,4,5について、議題集3～12ページに基づき、事務局より一括説明。

◇質疑応答

○坂本委員

・事業・対策等実施結果報告で、予算措置が「無」で、事業は21年度「継続」の意味は。

○学校安全保健課

・事業の実施に費用が発生せず、通常業務の範囲で実施可能を表している。

○畜産課

・事業の実施に特別予算を組んではいないが、事業自体は継続という意味です。

○坂本委員

・「食の安全・安心情報メール」は何人ぐらいに配信しているか。

○衛生指導課

・約600件の登録があります。

○羽田会長

・BSE検査の今後の方針は。

○事務局

・平成19年度にBSEに関するリスクコミュニケーションを実施し、全頭検査継続の要望が多いことから、今のところ全頭検査の中止は考えていない。

○羽田会長

・食の安全・安心レポートを教育等に使う際に、著作権等の問題はあるか。

○事務局

・そのような場で使用し、併せて普及啓発していただければありがい。なお、加工等せず使用していただければ、問題ありません。

○北村副会長

・レポートのNo,2からNo,15について改定版を発行した理由は。

○事務局

・統計的に数字が古くなった部分の入れ替えです。

○松本委員

・前回は、賛成・反対に分かれ、すばらしいリスクコミュニケーションができた。
平成21年度の実施回数は。

○事務局

・リスクコミュニケーションを3回、協議会を2回を予定している。

・遺伝子組換え食品は、国が承認し、表示も法律で縛られている。担当者としては、安心して食べていただくことが必要であると思っている。

・遺伝子組換え食品をテーマにすると関心がある方々が集り、その方々の意見が反映され、県民全体の意見からはなれてしまう可能性を考慮していただきたい。

○松本委員

・前回は、チームに分かれての討議であったが今回はどうなるのか。

○事務局

・今回は食中毒なので、傍聴する方々にもわかりやすい形を考えている。

○坂本委員

・今回のテーマ、カンピロバクターは、食品安全委員会との関係なのか。

○事務局

・国もカンピロバクター対策として、加熱不十分な喫食の防止をあげている。国がするからではなく、本県も同様の考えと県内の発生が多いことからである。

○羽田会長

・カンピロバクターはわかりにくいと思うので、もう少しわかりやすい言葉でリスクコミュニケーションのパンフレットを作成したらどうか。

○事務局

・副題としてそういうものをつけることを検討します。

○羽田会長

・判りやすいタイトルの方が、興味もわき議論になると思う。

・専門用語が多いと、「言葉がわからないから難しい」となってしまう。

(6)　消費者庁について

◇議題6について、議題集13～17ページに基づき、事務局より概要説明。

(7)　元気な「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画(食育計画)について

◇議題7について、会議資料「元気な「ちば」を創る「ちばの豊かな食卓づくり」計画」(概要版)に基づき、安全農業推進課より概要説明。

◇質疑応答

○渡辺委員

・学校給食を食べさせてもらう機会があったが、千葉県産の野菜の評判は良かった。

・私は、新入生の保護者説明会で「早寝・早起き・朝ごはん」で、「3食、ちゃんと食べる子は、おちついた良い子になる。」という話をしている。

○安全農業推進課

・学校給食の県産品使用率をアップさせるための話し合いを関係各課と行っている。

○学校安全保健課

・今年度、新たな取組みとして、11月の一日を千産千消デーとし、学校給食で県産品を使うこととしている。県産品の活用促進に繋げていきたい。

○羽田会長

・このパンフレットの中に載っているリーフレットはどこで手に入るのか。

○安全農業推進課

・様々なリーフレットがあり、「これを何部」との連絡をいただければ対応します。

○坂本委員

・「安全・安心」について言及しているが、「ゼロリスクは無い」ということを盛り込めないか。

・千産千消だから安全が担保されるわけでも、顔が見えるから、即、安全という保証はない。

・安全と安心を四字熟語のように使っている恐れがある。

以上